

JAVVISA

日本高視認性安全服研究所 (JAVVISA) は「JAVVISAウォーク中山道」の第8回目をこのほど開催、高視認性安全服のベストを着用した会員7人が難所の碓氷峠を越え、軽井沢宿まで18キロを歩きとおした(写真)。江戸時代の「五街道」を高視認性安全服を着用して歩き、多くのドライバーに服の安全性を知ってもらおうのが狙い。

スタートは東京・日本橋、ゴールは京都の三条大橋。1カ月に1度、1回20キロを歩き、

歩いて実証、高視認性



万台、約100万人が高視認性安全服を見ると試算する。

初回は昨年5月、日本橋から蕨宿まで20キロを歩いた。1年間では約150キロを徒破した。「推定、往来する人約30万人と車両約20万台にアピールできたのでは」と振り返る。ゴール予定は2016年11月。

3年で530キロの踏破を目指し「全服」の認知度向上、啓発にす。中山道を往来する車約75万台とつながるものと期待する。

「ウォーク中山道」8回目開催